

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2794100020		
法人名	関西物流株式会社		
事業所名	グループホームアセス北梅田		
所在地	大阪市北区本庄西1-9-12		
自己評価作成日	平成 29年 12月 1日	評価結果市町村受理日	平成 30年 4月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&jigyosyoCd=2794100020-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 2月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつも明るく笑顔の絶えない広々とした空間である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄駅に近い、交通の便のよい立地条件に建てられた10階建てのビルの2階にあるグループホームです。2ユニットが同じフロアにあり、広々とした空間では利用者同士が自由に行き来しています。ホームの名前のアセスの名称には『Always Smile Enjoy Space』 いつも 笑顔で 楽しい 空間』という想いが込められています。管理者や職員は、利用者の笑顔が輝く暮らしを支え、「家では笑わなかったのに、ホームで笑顔になった」という利用者の話に、自信と励ましをもらっています。また、管理者は、利用者の笑顔は職員の笑顔があつてこそ生まれるとの考えを大切にしており、職員が楽しく働ける職場環境づくりにも力を入れています。管理者の思いは、職員の定着に繋がっており、経験豊富な職員が多く、利用者の安心した生活を支えることができています。「自分の身内を入居させたいと思えるのが私たちの自慢です」と言う職員が支える利用者の毎日は、いつもどこからか笑い声が聞こえてくるほど明るく活気に溢れています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アセス北梅田の運営理念を明記しヘルパーステーションに掲げ、日常の業務を通じて方針を職員で共有し行動するように指導している。	ホームの名前のアセスの名称には「『Always Smile Enjoy Space』いつも 笑顔で 楽しい 空間」という想いが込められ、管理者や職員は、利用者の笑顔が輝く暮らしを支えています。理念は日常的に職員が確認できるように、ヘルパーステーションに掲示しています。新入職員のオリエンテーションでも理念の実践について伝えています。今後は月間目標を考え、さらなる理念の実践に向けて取り組む予定です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入り、町内の活動に積極的に参加している。 行事として月に2回地域のボランティアの方に訪問していただき交流している。 地域の保育園とも交流があり年に3回ほど合同で行事を行っている。	町内会に加入し、地域での地蔵盆やさくらフェスティバル、敬老会、区役所でのふれあいフェスタ等といった行事には積極的に参加しています。小学校で開催される盆踊りでは、ホーム利用者用のスペースを用意してもらっています。地域住民の傾聴ボランティアや歌やギター等のボランティアの訪問は、利用者も楽しみに待っています。「今後は、地域住民が参加できるホームでの行事を実現させたい」と管理者や職員は考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	北区にこりんくの会に参加し、意見交換、お手伝い等をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、施設の活動報告及び予定を話し、参加者よりご意見・アドバイスを頂き取り入れる様努めています。	会議は、家族、地域社会福祉協議会会長、町内会代表、地域包括支援センター職員、地域の総合相談窓口担当者等の参加で開催しています。会議では、ホームの状況、行事、活動報告・説明を行い、参加者から評価や助言を得て、運営に活かしています。参加者からは毎回貴重な意見や助言をもらうことができ、管理者は何よりの「ホームの応援団」だと感謝しています。外出が困難になりつつある現状に対して、1階の花壇にプランターを設置し、水やりを行い、外の空気を吸うことで気分転換に繋がることや、災害時には具体的に何を協力してほしいかホームの要望をまとめてほしい等、ホームのことを真剣に考えてもらっている意見が出ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH連絡会や運営推進会議などで地域包括支援センターの職員の方に報告・相談し情報を提供して頂き、助言を得ています。	区の担当者とはいつでも相談できる関係にあります。区役所内にあるボランティアセンターとも、密に連携をとっています。区内のグループホーム連絡会には、地域包括支援センター職員も出席し、情報の交換と連携を深めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に対し「身体拘束のないケア」を目指し社内研修で身体拘束について理解を深め、意識の向上を図っています。	身体拘束廃止や虐待防止に関する研修を実施し、職員で人権を守るケアの確認を行っています。ホームでは玄関は開錠していますが、エレベーターは暗証番号で、利用者が自身で開けることは困難な状況です。ユニット間は同じフロアで自由に行き来できます。また、利用者が外出したような様子を察知したら、職員が一緒に付き添う等、自由な暮らしの支援をしています。	エレベーターのロックについては、利用者に閉塞感を与えないよう、引き続き安全で自由な暮らしを支援する工夫を重ねていくことが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対し「虐待防止」について社内研修を行い、知識を深め、不適切なケアの無い環境作りをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設でも後見人制度を利用している方が増えており、キーパーソンの環境・負担等を考慮して話をする機会を設けている。権利擁護については年に1回社内研修を実施するよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族からの質問があれば説明を行い理解して頂ける様努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱は常時設置を行ない、施設に対して直接いえない場合に利用して頂くようご家族に説明している。 又、直接伺うことができる場合は職員及び会社の上層部に報告する。	家族からより多くの意見や要望を出してもらえるように、家族の面会時は声かけし、言いやすい雰囲気づくりを心がけています。面会に来られない家族に対しては電話での報告を密にしています。成年後見制度を利用する利用者も増えてきており、後見人との連携も大切にしています。毎月発行される「アセスだより」は、利用者の暮らしぶりが写真入りで紹介され、わかりやすい内容になっており、家族に送付しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回社内会議を開き職員からの見 は代表者に届く様努めている。 カンファレンス等で職員の意見・提案を 聞く機会を設けている。	管理者以下役職者の社内会議で、ホ ームの運営について話し合っていま す。職員のグループ会議で出た意見 や提案もホーム運営に活かしていま す。管理者・主任・副主任を配置し、職 員の意見や要望を聞きやすい体制が 整っています。管理者は、職員の笑顔 があってこそ利用者の笑顔が生まれる との考えを大切に、楽しく働ける職場 環境づくりを心がけています。職員の 意見は尊重され、チームワークがよく、 離職者も少ない職場となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や 実績、勤務状況を把握し、給与水準、労 働時間、やりがいなど、各自が向上心を 持って働けるよう職場環境・条件の整備 に努めている	個々の労働意欲の向上の為、自己評 価を実施し目標を持って取組めるよう 努めている。 年に1回の昇給制度 有給休暇取得の自由 サービス残業はさせない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりの ケアの実際と力量を把握し、法人内外 の研修を受ける機会の確保や、働きな がらトレーニングしていくことを進めてい る	社内研修を行っている。3ヶ月に1回 入社して3ヶ月は試用期間を設け指導 者をつける。 経験に応じて、社外の研修も受けてい る。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区 GH 連絡会を通じて他施設との交流を活発に行っている。 また、大阪市のグループネットワーク研修に参加し勉強会や意見交換等を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの際に御が本人の性格や生活の様子を十分に聞き取り、入居時に発生する困難を出来るだけ少なくする様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様から今までの生活の様子を詳しく聞き、また、家族の要望も聞き、家族が安心して親御さんを預けられる様に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ早く施設の生活や環境に慣れて頂く様、職員全員が支援方法を統一して混乱されない様、対応に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GH 本来の生活の支援という形から出来る事は一緒に行って頂くという姿勢で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出等、許す限り家族と共に過ごす機会を持って頂く為のお声かけを常にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が来訪されるのは構わない事はお伝えしている。 また、年賀状を出す支援も行ない、馴染みの関係を大切にしている。	ホームでは馴染みの人との関係継続のため、年末には年賀状作りを行事化して支援しています。家族や知人のいない利用者には後見人宛に、文字を書くことが難しい利用者には職員が手を添えて書くなどして全員が参加しています。ホーム内の利用者宛にバースデーカードを手作りして贈る利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間をさりげなく取り持ち、話をする機会を作り、寂しい思いをさせない様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居理由により、継続した関係は難しい場合の方が多いが、出来るだけ気軽に訪ねて下さる事が出来る関係であり続けたいと考え、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを汲み取る事は容易ではないが、出来る限り本人らしく暮して頂ける様に努めている。	職員は日々の会話や仕草から利用者の思いや意向を把握するように努めています。新聞のチラシ広告などから食いたいものを聞き、一緒に買い物に行ったり夕食のメニューに取り入れたりしています。読書好きの利用者のために、興味のありそうな分野の古本を調達して喜ばれた事例もあります。	利用者一人ひとりの思いや意向を叶えるためにも、職員は生活特性だけでなく、キャッチした情報をこまめに記録に落とし、職員間で共有することが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前の生活の様子などはアセスメントの段階で家族様から聞かせ頂き、職員全員が共有して援助にやくだてる様に努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々得る事が出来た情報は、職員全員が周知し活かす様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回チームカンファレンスを行ない、家族の希望・意見も取り込み、その都度現状にあった介護が出来る様、介護計画を作成している。 介護計画に対し、月1回モニタリングを行ない、3ヶ月毎必要に応じて見直しを行っている。	利用者、家族より聞き取った情報を基にアセスメントを行い、介護計画を作成しています。介護計画は3ヶ月毎に見直し、状況に変化があった場合は随時見直します。モニタリングは毎月、担当者が実施し、ケースカンファレンスで話しあっています。カンファレンスの結果は分かりやすく整理され、職員間で共有しています。	今後は、利用者一人ひとりの思いや願いがより実現できるように、本人の意向を反映した内容の介護計画の作成が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個々の介護日誌に記入を行ない、特に気づいた事、注意すべき事は申し送りノートに記入し、日々の介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに合わせて取り入れるものは早急に対応する様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	色々な地域資源を活かし、楽しい生活が送れる様に支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医はもちろん、個々のかかりつけ医とも友好関係を築く様支援している。 また、夜間や緊急時にはオンコール体制を構築し、かかりつけ医との連携も図っている。全ての利用者が往診を月2回受けている。 訪問看護の定期的な看護も受けている。	関連グループの医療法人が運営する病院（内科）があり、夜間や緊急時のオンコール体制が整っています。利用者はこの病院の他、地域のクリニックなどからかかりつけ医を選び、月2回の往診を受けているほか、月1回の訪問看護で健康状態をチェックしています。訪問歯科や訪問マッサージを受ける利用者もあります。その他の診療科の受診は家族の同行が原則ですが、家族が近くにいらないなどの利用者には職員が同行しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と契約しており、その都度情報交換を行い、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時には定期的に見舞いに行き、担当医師・看護師・家族様と情報交換を行っている。 医療機関の協力も得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に対する対応はその都度家族様・医師と話し合う場を設けている。	重度化や終末期に向けてホームでは協力病院のバックアップ体制のもと、希望があれば可能な限り受け入れる方針です。利用者の家族や病院と密に連絡を取り合う中で、過去1年間に2件の看取り事例があります。また、終末期に向けた取り組みとして職員研修を重ねるほか、夜勤配置では2名中1名を必ず看取り経験のある職員にするなど、経験の浅い職員の負担軽減と精神的ケアに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時に備えて、職員全員が慌てない様にマニュアル作成、職員間でのコミュニケーションはしっかりと取り、常々心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーの設置、非常口の確保・確認、年2回の消防避難訓練を行っている。 災害時に対し、食料や水の備蓄もしている。	防災マニュアルを完備し、消防署の協力で利用者も参加して避難訓練を行っています。今後は防災や地震、洪水など災害別の防災訓練を行うことを課題に掲げています。また、防災に向けて地域との協力体制を築くため、運営推進会議では防災をテーマに活発な意見交換を行っています。 備蓄のペットボトル水や缶詰はキッチンに配置し、常に回転させることで賞味期限切れを防いでいます。平成30年度には備蓄量を増やす予定です。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の場である事を留意した上で、言葉かけや対応に気を配った支援に努めている。 また、研修で接遇や人権について学び、意識の維持・向上に努めている。	人権や接遇の研修を実施しています。管理者は、日常の中での利用者の尊厳に配慮したケアについて、利用者にストレスを感じさせない言葉かけや関わり方を具体的に伝えています。また、利用者への関わり方を上司が後ろ姿で見せることの大切さを、役職者間で確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の許せる範囲ではあるが、自己決定・希望を表せる事が出来る様に支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・おやつの時間以外は自由な時間を持って頂いている。 行事やアクティビティーに関しても声かけは必ず行うが強制はしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節を間違えていない限り、出来る方には自分で選んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には食事の準備・お膳拭き・洗い物などを職員と一緒に手伝って頂いている。	朝食と夕食はホームで作り、昼食は業者の仕出し弁当を提供しています。ご飯と汁物はホームで準備しています。利用者の希望を聞きながら、食事担当職員が毎月の献立を作成しています。意見や要望を表現しにくい利用者にも、日常の関わりの中での何気ないひと言に耳を傾け、一人ひとりの嗜好を知ることを大切にしています。食事の準備や後片付けを積極的に手伝い、役割が生活の張りとなっている利用者もいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	水分量・食事量はその都度確認・記録 している。 また、持病により量の加減は行ってい る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声かけ・見守り、出来な い方にはその都度職員が声かけ・介 助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	個々の排泄の記録を残し、一人ひとり のパターンに合わせて声かけ・誘導を 行っている。	トイレでの排泄を基本とし、利用者一 人ひとりの排泄リズムに合わせた介助 を行っています。排泄の記録も丁寧 にとり、最終排便等の状態が分かりやす く工夫されています。リハビリパンツを 使用して入居した利用者が、声かけや 誘導で布パンツ使用になり、排泄が自 立した事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をつけ、日中こまめに水分摂 取の声かけ、食物繊維の食べ物の摂 取、運動、口腔体操を行い、よく噛んで 食べていただくよう声かけを行ってい る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回を基本として、声かけ・誘導を行いながら、個浴でゆったりと入浴していただき、職員と会話をしたり、楽しく入浴していただいています。拒否の強い方は入れる時に入って頂く事もある。	1週間に2～3回の入浴となっています。入浴日以外でも希望があれば入浴できます。入浴を好まない利用者には無理強いせず、声かけの工夫や職員間の連携で安心して入浴してもらっています。菖蒲湯やゆず湯等、季節ごとに楽しんでもらう工夫もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めているが、居室では自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師・医師・看護師と連携し、常に確認を怠らないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には出来る範囲で声かけを行ない、色々な内容を役割・気分転換として手伝って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、近隣のスーパーへ食材の買い物を兼ねて職員と一緒に外出している。また、地域行事の参加として、初詣、お花見、盆踊り、敬老会など外出が出来る機会を設けて支援できる様取り組んでいる。	近くのスーパーへの買い物は日常的になっています。地域の行事に積極的に参加しているので外出の機会も多くあります。初詣にも行きました。利用者の重度化が進む中、外出支援はホームとしても課題として考えています。外出が困難になりつつある現状に対して、運営推進会議の参加者から、「1階の花壇にプランターを設置し、水やりを行い、外の空気を吸うことで気分転換に繋がる」との意見があり、プランターを設置しました。水やりで季節や気候を感じてもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人より問いがあれば「御家族から預かっています」と伝え、対応している。また、希望があれば一緒に買い物へ行き、購入を行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	申し出があれば自分で掛けられるように支援し、また、職員が代わりに掛けてお渡しする事もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の照明・空調には常に気を配っている。また、廊下やフロアなど季節感を感じていただく為に写真や創作物等を掲示している。	ホーム内はゆったりと、穏やかな雰囲気です。2ユニットが隣同士で、利用者はユニット間を自由に行き来できます。リビングの一角には、ゆったりとしたソファやマッサージ椅子が置かれ、寛げる場所になっています。廊下の壁面には、季節を感じる貼り絵や利用者の写真入りの作品が飾られ、楽しい暮らしの様子が伝わってきます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは自由に行き来する事ができ、本人のお気に入りの場所を作ったりされるのを支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のレイアウトは御家族様・御本人に任せており、馴染みのあるものや、思い出のある物を自由に持ち運んでいただいている。	本人が気持ちよく過ごせる居室づくりを大切にしています。利用者は馴染みの家具や仏壇、冷蔵庫など、以前から使用してきたものを継続して使っています。家族写真や利用者が作った作品などを飾り、利用者一人ひとりの好みに合わせた居室づくりを支援しています。ガーデニングが好きな利用者は部屋に鉢植えを置き、楽しんでいます。利用者が自分の部屋を分かりやすいように、各居室のドアに変化を持たせた作りとなっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人で出来ることは頑張っている。出過ぎた介護は行わず、安全を考慮しつつ見守っている。		